

会社名 WD-40 カンパニー	製品名 WD-40 エアゾール	最新改定日 2017年12月27日
--------------------	--------------------	----------------------

		

作成日：2017年12月27日

### 1. 化学品及び会社情報

製品名/化学品の名称	WD-40 エアゾール (有機混合物)
会社名	WD-40 Company
住所	9715 Business Park Ave San Diego, California, USA Post code 92131 電話: +1-800-448-9340 +1-858-251-5600
24時間緊急電話番号	緊急専用: 1-888-324-7596 (PROSAR) 漏えい時: 1-800-424-9300 (Chemtrec) 国際電話: 1-703-527-3887

### 2. 危険有害性の要約

GHS分類		
物理化学的危険性	可燃性エアゾール	区分1
健康に対する有害性	吸引性呼吸器有害性	区分1
GHSラベル要素		
絵表示	 	
注意喚起語	<b>危険</b>	
危険有害性情報	H222 極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール H229 高圧容器: 熱すると破裂のおそれ H304 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ	
注意書き		
【安全対策】	P210 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。 P211 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。 P251 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。	
【応急措置】	P301+P310 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。 P331 無理に吐かせないこと。	
【保管】	P405 施錠して保管すること。 P410+P412 日光から遮断すること。50°C以上の温度にばく露しないこと。	
【廃棄】	P501 内容物、容器を地方自治体及び国の法規に従って廃棄すること。	

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
-------------	-----

会社名 WD-40 カンパニー	製品名 WD-40 エアゾール	最新改定日 2017年12月27日
--------------------	--------------------	----------------------

化学名/一般名	CAS番号	含有量 (wt.%)	GHS 分類
水素化精製軽質 留出物(石油)	64742-47-8	50-70	引火性液体:区分4 吸引性呼吸器有害性:区分1
非有害性成分	混合物	30-50	区分外
二酸化炭素	124-38-9	2-3	加圧ガス、圧縮ガス

#### 4. 応急措置

飲み込んだ場合	吸引性呼吸器有害性。吐かせてはならない。直ちに医師、救急センター又は WD-40 安全ホットライン 1-888-324-7596 に連絡すること。中国の化学物質事故 24 時間対応ホットライン 0532-83889090
眼に入った場合	水で十分に洗眼する。コンタクトレンズを付けている場合は、洗淨開始から5分後に外し、さらに続けて数分間洗う。刺激が続く場合は医師の手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	水と石鹼で洗淨すること。もし刺激がひどくなったり、継続する場合は、医師の手当てを受ける。
吸入した場合	刺激を感じたら新鮮な空気のところに移動させること。もし刺激や他の症状があらわれたり、継続する場合は、医師の手当てを受けること。
最も必要な徴候症状 (急性、遅発性)	眼の刺激を引き起こす可能性がある。皮膚への接触は皮膚の乾燥を引き起こす可能性がある。ミストを吸入すると、咳や頭痛、めまいを引き起こす可能性がある。飲み込むと有害または致命的である。飲み込んだ場合は、吸入されて、肺の損傷を引き起こす可能性がある。
医師に対する特別な 注意事項	飲み込んだ場合は、直ちに緊急の医療措置が必要である。

#### 5. 火災時の措置

消火剤	噴霧水、粉末消火薬剤、二酸化炭素、泡消火剤を使用すること。棒状水または氾濫するような多量の水を使用してはならない。燃焼している製品が表面に浮かび、火災が拡大する。
特有の消火方法	消火を行う者は常時、圧力自給式呼吸器と完全防護服を使用する。火災に曝らされている容器を水で冷却する。破裂している容器から保護するために遮蔽を使用する。
特有の危険有害性	内容物は加圧状態である。極めて可燃性のエアゾールである。発火源や裸火から隔離すること。容器を極めて高い熱や炎にさらすと激的な力により容器が破裂することがある。蒸気は突発的な火事の原因になる。蒸気は空気より重く、表面を移動して離れた着火源まで到達し、フラッシュバックを起こすことがある。蒸気と空気の混合物は密閉空間で爆発を起こす危険がある。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	すべての着火源を取り除き、付近を換気すること。適切な保護具を着用すること(8項を参照)。
環境に対する注意事項	要求に応じて当局に漏出を報告すること。
封じ込め及び浄化の方法 及び機材	漏れている容器は、圧力が解放されるまで、プラスチックの袋か、解放されたバケツの中に置く必要がある。液体を封じ込めて、不活性吸収剤に吸収させ集め廃棄用容器に入れること。漏出区域を徹底的に浄化する。要求に応じて当局に漏出を報告すること。

会社名 WD-40 カンパニー	製品名 WD-40 エアゾール	最新改定日 2017年12月27日
--------------------	--------------------	----------------------

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
安全取扱い注意事項	<p>眼との接触を避ける。長時間の皮膚との接触を避ける。蒸気やエアゾールの吸入を避ける。適切な換気が行われている場所だけで使用する。熱、火花、熱面、口火および裸火から遠ざける。</p> <p>噴霧する前または電源の近く缶を持ち込む前に、電動工具、モーターや家電製品のプラグを抜くこと。電気は缶の穴を燃焼させ、内容物の炎上を引き起こす可能性がある。重大な火傷を避けるために、缶を、バッテリーの端子、モーターや家電製品の電氣的接続部や他の電源に触れないようにすること。取扱い後は、石鹼と水で十分に洗うこと。容器を使用しない時は、密閉すること。子供の手の届かないように保管すること。空になっても容器に穴を開けたり、つぶしたり、焼却したりしないこと。</p>
安全な保管条件	<p>涼しく、よく換気された場所で、混触危険物質と離して保管すること。</p> <p>直射日光の元や、48℃以上で保管しないこと。酸化剤との接触を避けること。</p> <p>危険物 第4類第三石油類 危険等級Ⅲ</p>

## 8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度	成分	ばく露限界値
	脂肪族炭化水素	1200 mg/m <sup>3</sup> TWA (製造者推奨)
	非有害性成分	未確定
	二酸化炭素	5000 ppm TWA, 30,000 ppm STEL ACGIH TLV 9000 mg/m <sup>3</sup> , 18000 mg/m <sup>3</sup> STEL PC OEL

一般消費者用としての管理	
技術的管理	よく換気された場所で使用すること。
保護具 眼	眼との接触を避けること。常に顔からスプレイを離しておくこと。
皮膚	皮膚との長時間の接触を避けること。皮膚との接触の可能性のある操作では耐化学薬品手袋が推奨される。
呼吸器	換気の良い場所で通常使用の場合、呼吸器保護具は必要ない。
多量に扱う場合または職場での使用の場合の管理	
技術的管理	ばく露水準を作業環境許容濃度以下に維持するために、適切な全体排気装置及び局所排気装置を使用すること。
保護具 眼 皮膚 呼吸器	<p>眼との接触の可能性があると看とるでは安全ゴーグルが推奨される。</p> <p>耐化学薬品手袋を着用すること。</p> <p>換気が適切であれば不要である。もし作業環境許容濃度を超える場合は、法規や公的基準(例えば JIS T8150 など)に準拠した呼吸器を付けること。呼吸保護具の選択と使用は、汚染物質の種類、形状および濃度に基づいて行わなければならない。</p> <p>労働安全衛生法および JIS T8150 に準拠すること。</p>
衛生対策	取扱い後は水と石鹼で十分に洗うこと。

会社名 WD-40 カンパニー	製品名 WD-40 エアゾール	最新改定日 2017年12月27日
--------------------	--------------------	----------------------

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色	淡琥珀色の液体
臭い	マイルドな石油臭
臭いの閾値	確立されていない
pH	確立されていない
融点/凝固点	確立されていない
沸点/範囲	147-663 °C
引火点	79.5 °C
蒸発速度	確立されていない
燃焼性(固体、気体)	可燃性エアゾール
VOC	533 grams/liter (65%)
燃焼限界	下限: 0.6 % 上限: 5.0 % (脂肪族系炭化水素)
蒸気圧	0.023 kPa @ 20 °C
蒸気密度	6.2
比重	確立されていない
溶解性	水に不溶
分配係数;n-オクタン/水	確立されていない
自然発火温度	239 °C
分解温度	確立されていない
粘度	3.72 mm <sup>2</sup> /sec@40 °C
流動点	-42 °C

## 10. 安定性及び反応性

反応性	通常の条件下では非反応性
化学的安定性	安定
危険有害反応可能性	危険な重合は起こらない
避けるべき条件	熱、火花、炎及び他の発火源を避けること。容器に穴を開けたり、焼却しないこと。
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素

## 11. 有害性情報

過剰ばく露による症状	
吸入	高濃度では、鼻や呼吸器への刺激や、頭痛、めまいや吐き気などの中枢神経系への影響を引き起こす可能性がある。意図的な乱用は有害または致命的である可能性がある。
皮膚への接触	長時間及び/又は繰り返し接触は軽度の炎症や皮膚炎の可能性で脱脂を生ずる可能性がある。
眼への接触	接触により眼に刺激を与える可能性がある。赤眼や涙が出ることもある。
飲み込み	本製品は低経口毒性である。嚥下は胃腸刺激、吐き気、嘔吐、下痢を引き起こす可能性がある。本製品は、吸引呼吸器有害性である。飲み込んだ場合、肺に入る可能性があり、化学性肺炎、重度の肺の損傷や死亡の原因になる可能性がある。
慢性症状	ないと予想される。
発がん性物質の疑い	いずれの成分もIARC、NTP、ACGIHまたはOSHAによる発がん性物

会社名 WD-40 カンパニー	製品名 WD-40 エアゾール	最新改定日 2017年12月27日
--------------------	--------------------	----------------------

	質又は疑いのある発がん性物質として記載されていない。
生殖毒性	何れの成分も、生殖有害性とはみなされない。
経口急性毒性(推定): 経口 >5,000 mg/kg; 経皮 >2,000 mg/kg 成分の評価に基づく。 本製品は確率された基準により毒性として分類されない。吸引性呼吸器有害性である。	

## 12. 環境影響情報

環境有害性	特定の水生毒性データは現在利用可能ではない。しかしながら、本製品の成分からは水生生物に有害とは予想されない。葉に塗ると、呼吸や蒸散を妨げることによって草や小さな植物を殺す可能性がある。本製品は魚に有毒ではないが、窒息死の原因となる鰓の魚体を覆うことがある。
残留性・分解性	成分は生分解すると予想される。
生体蓄積性	成分の評価からは生体蓄積性はないと予想される。
土壌中の移動性	データなし。
その他の有害性	知られていない。

## 13. 廃棄上の注意

エアゾール容器は、穿刺したり、家庭用ゴミ圧縮機で圧縮したり、焼却したりしないこと。空の容器は、通常の廃棄物管理対策で処理することができる。該当する国及び地方自治体の規則に従って、すべての廃棄物、吸収剤、およびその他の物質を廃棄すること。
--

## 14. 輸送上の注意

国連危険物輸送勧告、IMDG、ICAO、危規則	国連番号 1950 エアゾール(容積が 1L を超え、再充てんができないものであって、かつ、備考の欄の規定により当該危険物に該当するものに限る。) クラス等級2 区分2.1 引火性高压ガス
輸送上の注意	WD-40 カンパニーは、航空機輸送の場合の容器の差圧適合試験に適合する試験を実施していない。特定の審査が行われられない限り、製品を航空機輸送することを推奨しない。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	第3種有機溶剤等(施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第5号)【54 ミネラルスピリット】 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)【551 ミネラルスピリット】 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)【551 ミネラルスピリット】
消防法	危険物 第4類 第三石油類

## 16. その他の情報

改訂版	版 1.1 GBT16483-2008 により改訂
教育訓練の指示	適用外
詳細情報	この情報は、現時点の我々の知識に基づいている。この SDS は作成されており、本製品のみを対象としています。
免責事項	雇用者は、この情報を収集した他の情報の補足としてのみ使用し、適切な使用を保証し、従業員の健康と安全を守るために、この情報の適合性を独立して判断する必要がある。この情報は保証なく提供されており、この安全データシートに準拠していない製品、または

会社名 WD-40 カンパニー	製品名 WD-40 エアゾール	最新改定日 2017年12月27日
--------------------	--------------------	----------------------

	他の製品やプロセスと組み合わせて使用する場合には、ユーザーの責任が生じます。
改訂日: 2017年12月27日 初版: 2017年9月10日	
作成者: Industrial Health & Safety Consultants, Inc. Shelton, CT, USA	